

MY
ACTION
VOL.05

プロ野球選手

和田毅

WADA TSUYOSHI

PROFILE

1981年島根県出身。2002年、福岡ダイエーホークス(現福岡ソフトバンクホークス)入団、新人王を獲得する。アテネ五輪、第1回ワールド・ベースボール・クラシック、北京五輪の代表としても活躍している。05年より認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」のワクチン支援に参加。公式試合の投球数1球につき10本のワクチンを寄付するという「僕のルール」が話題を呼んでいる。

いつごろ意識し始めたかははっきり覚えていませんが、学生時代から、将来何らかの形で社会貢献をしたいと考えていました。そして、ずっと野球をやっていたので、プロ野球選手になったら何かできたらいいなあという思いがあったんです。

実際、プロに入ってから、野球選手の中にも、さまざまな形で社会貢献をしている人がいることを知りました。盗塁数に応じて車いすを寄付したり、シーズンオフに児童福祉施設などを訪問したり…。僕は僕なりのやり方でできることを考えていたところ、テレビを通じて認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」の活動を知りました。自分の支援が、何に使われるのか分かるのがいいなど。あと、まだ誰もやっていないことをしたかった。プロ野球選手である以上は、野球を通じて

支援したい。僕はピッチャーなので、“投げる”ということを生かしたいと思い、「投球数に応じてワクチンを贈る」方法にたどり着きました。

でも、1球につき1本だとさすがに少ないですね(笑)。ワクチンは1本10数円から100円程度するというのを聞いて、1球ごとに10本のワクチンを支援することに決めました。さらに、勝利したときには20本、完投すれば30本、完封すれば40本といった具合に、自分への励みにもなるように工夫しました。自分が野球で努力した結果が、そのままワクチンの贈呈本数の増加にもつながる。これが、和田毅流「僕のルール」の原点です。

2005年からこの「僕のルール」を続けていますが、これまでに支援したワクチンの数は18万530本になりました。微力ではありますが、これからも“野球人”として投げ続ける



©認定NPO法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会

限り、感染症で亡くなる子どもたちを一人でも多く救っていくことができたいと思っています。

この活動を通じて、世界にはワクチンがなくて命を落とす子どもが1日約4,000人もいるということを知って驚きました。そして改めて、日本は本当に恵まれた国なんだなあ。世界には、困っている人がまだまだたくさんいます。大切なのはまず関心を持つこと。途上国に行ったりしなくても、「僕のルール」のように、身近で協力できることはたくさんあると思います。

僕の場合も、社会貢献に関心を持っていたからこそ、ワクチンの活動を知ることができた。常に意識していると、おのずと自分なりの方法が見えてくるもの。皆さんも、身近なところからできる国際協力を考えてみませんか。